

様式第 10 号(第 12 条関係)

除 害 施 設 設 置 届 出 書

和暦〇〇年〇〇月〇〇日

東松山市上下水道事業

東松山市長

宛て

届出者

住 所

氏名又は名称及び法人に

あつてはその代表者の氏名

電話番号

会 社 印
〇〇市〇〇1丁目2番3号
〇〇〇〇株式会社
代表取締役〇〇〇
代 表 者 印
〇〇〇〇—〇〇—〇〇〇〇

東松山市下水道条例第 9 条の 4 の規定により、除害施設の設置について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称	〇〇〇〇 東松山工場
工場又は事業場の所在地	東松山市大字新郷〇〇〇〇番地
△工場又は事業場の概要	別紙のとおり。
△除害施設の構造	別紙のとおり。
△除害施設の使用の方法	別紙のとおり。
△下水の量及び水質	別紙のとおり。
△用水及び排水の系統	別紙のとおり。

備考

△印の欄の記載については、別紙によることとし、かつ、できる限り、図面、表等を利用すること。

1・工場又は事業場の概要

イ 汚水排出施設の設置場所

添付第__○__図のとおり。(図中の汚水排出施設は赤線で記入すること。)

ロ 汚水排出施設の名称、型式、構造、主要寸法及び能力並びに当該汚水排出施設及びこれに関連する主要機械又は主要装置の配置

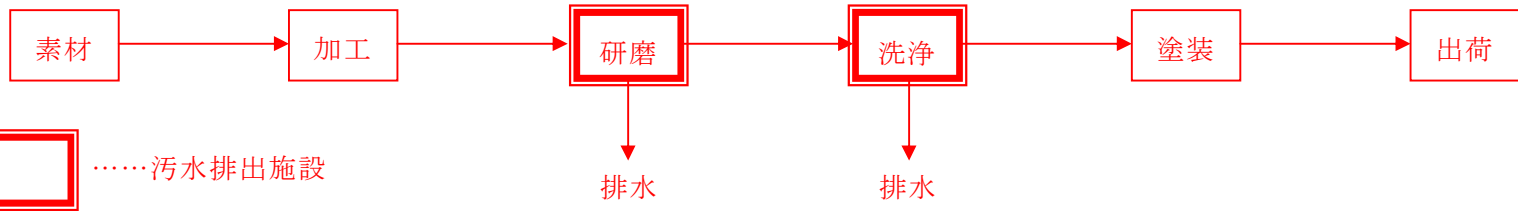
添付第__○__図のとおり。

汚水排出施設の名称	型 式	構 造	主 要 寸 法 (たて×よこ×高さ(深さ))	能 力	備 考
研磨施設	○○型	鉄製	○○cm×○○cm×○○cm	○○kg/時間	
部品修理作業	-----	コンクリート床	○○cm×○○cm×○○cm	○○個/日	主要寸法は、作業室の広さ

ハ 汚水排出施設を含む操業の系統

添付第__○__表のとおり。

(例)



ニ 汚水排出施設の使用時間間隔及び1日当たりの使用時間並びにその使用に季節的変動がある場合には、その概要

汚水排出施設の名称	使用時間間隔	1日当たりの使用時間	季節的変動の概要	備 考
研磨施設	8:00～17:00	8時間	なし	
部品修理作業	8:00～15:00	6時間	冬場作業少ない	

ホ 汚水排出施設を含む作業工程において使用する原材料（消耗資材を含む。）の種類、使用方法及び1日当たりの使用量

汚水排出施設の名称	原材料の種類	使 用 方 法	1日当たりの使用量	備 考
研磨施設	研磨剤	バリ取り研磨用	30kg	
部品修理作業	アルカリ性脱脂剤	表面処理用	10kg	

へ 汚水排出施設の使用時において、当該汚水排出施設から排出される汚水の水質（当該工場又は事業場から排除される下水に係る水質の基準が定められた事項に限る。）の通常値及び最大値並びに当該汚水の通常量及び最大量

単位：mg/l (pH, ダイオキシン類を除く)

汚水排出施設の名称	汚水の量 (m ³ /日)		温度 (°C)		pH		BOD		SS		n-ヘキサン抽出物質				窒素		燐		ヨウ素消費量		フェノール類		銅		亜鉛		鉄 (溶解性)			
	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大		
バレル研磨施設	40	60							900	800	50	300																		
部品修理作業	5	10									10	20																		
マンガン (溶解性)	クロム		フッ素		カドミウム		シアン		有機燐		鉛		6価クロム		ヒ素		水銀		アルキル水銀		PCB		トリクロロエチレン		テトラクロロエチレン		ジクロロメタン		四塩化炭素	
通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	
1,2-ジクロロエタン	1,1-ジクロロエチレン		シス-1,2-ジクロロエチレン		1,1,1-トリクロロエタン		1,1,2-トリクロロエタン		1,3-ジクロロプロペン		チウラム		シマジン		チオベンカルブ		ベンゼン		セレン		ほう素		1,4-ジオキサソ		7,8,9,10-四オキソ-2,3,7,8-テトラヒドロ-1,4-ジオキサソ		ダイオキシン類 (pg-TEQ/l)			
通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	

ト その他汚水排出施設の構造及び使用の方法について参考となるべき事項

なし

2・除害施設の構造

イ 除害施設の設置場所

添付第__○__図のとおり。(図中の除害施設は赤線で記入すること。)

ロ 除害施設に係る工事の着手及び完成の予定年月日並びに使用開始の予定年月日

工事着手予定年月日	工事完成予定年月日	使用開始予定年月日
和暦○○年○○月○○日	和暦○○年○○月○○日	和暦○○年○○月○○日

ハ 除害施設の種類、型式、主要寸法及び能力並びに汚水の処理の方式

種 類	型 式	構 造	主要寸法	処理能力	処理方式	備 考
凝集沈殿施設	○○式○○型	鉄 製	○○×○○×○m	5 0 m ³ /日 (m ³ /日)	凝集沈殿法	

ニ その他除害施設の構造について参考となるべき事項

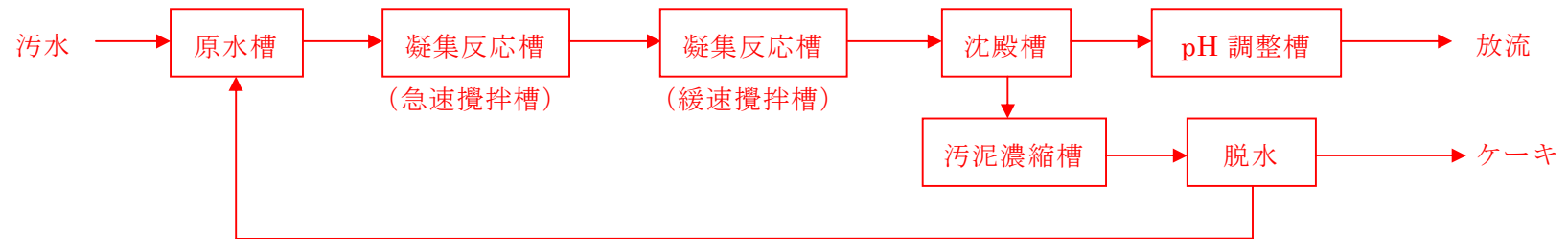
な し

3・除害施設の使用の方法

イ 汚水の処理の系統

添付第 〇 図のとおり。

(例)



ロ 汚水の集水及び除害施設までの導水の方法

添付第 〇 図のとおり。(集水及び導水の経路を、**赤線**で記入すること。)

口径100mm塩ビ管により、除害施設に導水する。

ハ 除害施設の使用時間間隔及び1日当たりの使用時間並びにその使用に季節的変動がある場合には、その概要

除害施設の名称	使用時間間隔	1日当たりの使用時間	季節的変動の概要	備 考
研磨排水処理装置	8:00~18:00	10時間	なし	

ニ 除害施設において中和、凝集、酸化、その他の反応の用に供する使消耗資材の1日当たりの用途別使用量

除害施設の名称	用 途 別	消耗資材の名称	1日当たりの使用量	備 考
研磨排水処理装置	凝集用	消石灰	20kg	
		塩化第2鉄	5kg	
		高分子凝集剤	10kg	
	pH調整用	硫酸	20kg	
		苛性ソーダ	20kg	

へ 汚水の処理によって生ずる残さの種類及び1月間の種類別生成量並びにその処理の方法の概要

残さの種類	1月間の生成量	処理の方法の概要	備 考
脱水汚泥	0.8 t (含水率80%)	フィルタープレスで脱水した汚泥は、ドラム容器に詰め自社内に保管。 産業廃棄物処理業者に委託処分。	汚泥収集運搬業者 〇〇産業㈱ 〇〇市〇〇〇〇番地 汚泥処分業者 ㈱〇〇産廃センター 〇〇市〇〇〇〇番地

ト 汚水を公共下水道へ排除する方法（排出口の位置及び数）

排出口の位置は添付第〇図のとおり。 排出口の数は合計2か所。

チ その他除害施設の使用の方法について参考となるべき事項

汚水処理施設設計・施工業者：㈱〇〇プラント 〇〇市〇〇町〇〇番地

汚水処理施設メンテナンス：〇〇保全㈱ 〇〇市〇〇町〇〇番地

4・下水の量及び水質

イ 公共下水道への排出口における下水の通常量及び最大量並びに当該下水の水質（当該工場又は事業場から排除される下水に係る水質の基準が定められた事項に限る。）の通常値及び最大値。

単位：mg/l (pH, ダイオキシン類を除く)

排出口の名称	汚水の量 (m ³ /日)		温度 (°C)		pH		BOD		SS		n-ヘキサン抽出物質				窒素		燐		ヨウ素消費量		フェノール類		銅		亜鉛		鉄 (溶解性)			
	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大		
No.1 (工程系)	45	70							10	30	1	3																		
No.2 (生活系)	2	4																												
マンガン (溶解性)	クロム		フッ素		カドミウム		シアン		有機燐		鉛		6価クロム		ヒ素		水銀		アルキル水銀		PCB		トリクロロエチレン		テトラクロロエチレン		ジクロロメタン		四塩化炭素	
	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大
1,2-ジクロロエタン	1,1-ジクロロエチレン		シス-1,2-ジクロロエチレン		1,1,1-トリクロロエタン		1,1,2-トリクロロエタン		1,3-ジクロロプロペン		チウラム		シマジン		チオベンカルブ		ベンゼン		セレン		ほう素		1,4-ジオキサソ		7,8-ジクロロ-2,3,7,8-テトラクロロ-1,4-ジオキサソ		ダイオキシン類 (pg-TEQ/l)			
	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大

ロ その他公共下水道に排除される下水の量及び水質について参考となるべき事項

なし

5・用水及び排水の系統

イ 用水及び排水の系統図

添付第__○__図のとおり。(用水系統は青線で、排水系統は赤線で記入すること。)

ロ 用途別用水量

用 水 別 (m ³ /日)								
上 水 道	地 下 水	その他 ()			回 収 水	合 計		
47								47
用 途 別 (m ³ /日)								
ボイラー用水	原料用水	製品処理用水	洗浄用水	生活雑用水	冷却用水	温調用水	その他 ()	合 計
		15	30	2				47

6・その他の参考事項

業 種 名	○○○製造業	操業年月日	昭和○○年○月○○日	事業場面積	3,000 m ²
主要製品名	○○○○、△△△	資本金 [円]	1 億 5,000 万		
生産高 [円/月]	12,000 万	従業員数 [人]	全社 400 人		